

# カブトのすみかに

## 射水のネットワーク 竹伐採し作成

射水市内の住民有志でつくる「きららかネットワーク」の竹林整備は3日、同市黒河新で行われ、メンバーら約60人が竹の伐採や切り出した竹のチップ化作業に汗を流した。チップは来夏にも堆肥となり、竹林内でカブトムシのすみかとなる予定で、里山の保全につ

なげる。

ネットワークによると、黒河地区には個人所有の竹林が点在し、手入れが行き届かない面もある。竹のチップからできた堆肥の山は温気に強く適度に空気が入るため、カブトムシが卵を産み付けやすい環境になるという。

メンバーは竹約200本をチェーンソーで伐採した後、森づくり団体を支援する「とやま森づくりサポートセンター」が用意した粉砕機でチップに加工し、竹林内の3カ所に積み上げた。

NPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会、大門里山の会、障害者向けの小規模多機能施設「小さな幸せの家いみず」も協力し、タケノコ掘りなども楽しんだ。きららかネットワーク

の藤岡正明理事長は「会員同士が連携し、今後も里山や自然環境の保全を続けたい」と話した。

竹をチップに加工するメンバー  
＝射水市黒河新

